

一般 全量外部搬出へ向かうゴミ削減

渡辺 修（みどり21）



令和7年度より菊川・掛川両市のごみは全量市外に搬出処理されることになりました。令和3年度の菊川市議会政策討論会からの提言書は、ごみ削減対策についてでした。6つの提言とその回答について取り組んできた結果とこれからの展望について質問いたします。

ます。

Q 市の目指す削減策を順調に行った場合、どのくらいの削減が見込めるか。

A ごみの総排出量に対する1人1日当たりの排出量の目標値を掲げており、令和元年度656グラムを令和7年度618グラムに削減するという目標になっております。生ごみ処理機補助金拡充や、新たなリサイクル品の回収で、令和4年度は632グラムとなっております。

Q 生ごみ処理機の補助金が導入され、今日まで何台の生ごみ処理機が市内で購入されたでしょうか。

A 実績では、令和3年度27件に対し、令和4年度は約2.3倍の61件となっております。

Q 食品残渣を活用した西方地区のバイオガスプラントの稼働状況は順調か。また発生するメタン発酵消化液の処分はどうなっているか伺います。

A 施設として不具合なく安定運転ができており、処理能力的にも順調に稼働していると伺っております。メタン発酵消化液は、将来液肥として農地還元できるよう、お茶の試験栽培が進められており



環境資源ギャラリー

一般 ひきこもり及び8050問題の支援

東 和子（みどり21）



厚生労働省のガイドラインでは、ひきこもりの定義として様々な要因の結果として社会参加、義務教育を含む就学、非常勤務、家庭外での交友などを回避し、原則的には6ヶ月以上にわたり他者と交わらない形での外出はあっても、概ね家庭にとどまり続けている状態を指す現象概念としている。

Q ひきこもり及び8050対象者の人数とその世帯数の把握について伺う。

A 令和元年静岡県の事業により民生委員・児童委員、主任児童委員の協力により概ね15歳から65歳未満の人の状況調査で自宅に引き籠もっている人43人、その引きこもり期間は15年以上が7人と最も多く当事者の年代は40代14人が最多でちなみに50代はその時点では2人で世帯数は集計していない。

Q 地域福祉計画においての位置づけについて伺う。

A 実際に相談や情報提供に至るきっかけとなるのは、これらの状

態より生活困窮や虐待など切実な問題を含む事情によるものが多いことが現状であるため関係課などにより、ケースに応じた対応をしている。

Q 当事者の相談・受診についての対応を伺う。

A 把握しているケースに応じ、心の相談窓口や社会福祉協議会の事業、地域包括支援センターや保健師による訪問、生活困窮者自立支援事業などを組み合わせ必要に応じて受診勧奨している。



プラザけやき